

二四 〔天保四年〕四月九日

一筆啓上候 追日温暖赴夏氣候処 弥御安全之由珍重
奉存候 拙方相替事無之候 御安慮可被下候 然ハ三
月廿一日御狀 四月一日ニ着致拜見候 楠正行朝臣真
迹 或人印行被致候よしニて 老枚おくり被下忝奉存
候 誠ニ珍書ニて別して忝く永く可致架蔵候 俠客傳
巻首ニ翻刻加入いたし 世ニ弘メ申度候 左候得は俠
客傳入用之品ニ御座候間 尤用立歛ひ入候事ニ御座候
依之御礼申述候

一 俠客傳三集五冊 此節稿本不殘出来申候 筆工板下も
三巻め迄出来 只今四の巻板下かゝせ申候 此後美少
年録四編をつゝり候つもりニ候処 此度の俠客傳三集
は 五冊共姑広姫の事のミにて 小六か不出候故 見
物のうけいかゝ可有之哉被存候間 其段丁子や^ね及相
談 第四集引つゝきつゝり立 当冬三集四集と出板の

二四 〔天保四年〕四月九日

つもりニとり極メ申候 俠客傳四集出来の上 美少年
録四集取かゝり候つもりニ御座候 依之御店之利運ニ
相成候 拙著頼尤諸方の事故 御店斗へ出精いたし候
ニも無之候へとも 当年ハ三集四集引つゝき出し不申
候てハ 右之わけ合ニて世評いかゝと存候間 無抛右
之趣ニくり合せ申候 乍然画工国貞二月下旬^ろ團扇の
画并ニ役者にしき画こみ合居候よしニて 今以さし画
ハ一枚も出来不申候 さてくはり合なくこまり申候
委細ハ丁平殿^ろ御聞可被下候

一 俠客傳三集潤筆内金拾兩ハ 先達^三而丁子や^ろ請取申候
残り金七兩内 先達^四而之本代残り金^五毫兩^六朱ト六匁差
引 金五兩三分ト五匁式分五厘 早^三ニ御渡し可被下候
其上四集潤筆内金拾兩 是又請取申度候 先達^三而丁平
殿^ろ美少年録四集内金拾兩 請取置候得とも 美少年
録四集ハ 俠客傳四集を綴り終り候而 つゝり候間
右俠客傳四集潤筆トふりかえ申度候 尤丁平殿も俠客
傳三集彫刻立かへ多く候よしニ付 此段得御意候 丁^バ
子屋御対面之節 御相談被成 夫迄丁子や^ろ金子不被

渡候ハ、飛脚便ヲ以早ニ御勘定可被下候 是亦委細
ハ丁平殿^ハ御聞可被下候

一此度注文之本類 別帛の通り丁子や殿^ニ頼ミ遣し候注
文之本下直之品御座候ハ、船ツミ之節一緒ニ御下し
可被下候 尤急キ不申品は御心かけ追^ク御下し可被
下候 是又丁平殿^ト宜御相談可被下候 右可得御意如
此御座候

一今般丁子屋平兵衛殿業用ニて 御地^ニ被罷越候ニ付

幸之義と存し 種^ニ頼ミ遣し候 御面会之節 此方様
子もとくと御聞可被下候 愚老両三年来持病の腰痛ニ
て 歩行成かたく 近比は机ニか^クり居候ても 少し
つゝ腰いたミ難義いたし候へ共 著述ハ業用之事故
随分出精いたし候 俠客傳四集内金わたり次第 早ニ
四集稿本取か^クり 年内出板の間ニ合せ申度候 此段
御承知可被下候 恐ニ謹言

四月九日

瀧澤篁民

河内屋

茂兵衛様

尚ニ 丁子や殿へ頼遣し候注文之本 別帛ニしるし申
候 御心得之上丁子や^ハ物語も御座候ハ、宜御相談
の上 別帛之通り御取斗可被下候 已上

〔別紙〕

覚

一大学衍義

右ハ代金貳分貳朱のよし 去年御申越被成候 それ^ハ

下直之本無之候ハ、貳分貳朱ニてかひ入申度候

一七修類稿

下直之本御座候ハ、ほしく御座候 本御座候ハ、右

之直段 飛脚便リニ早ニ御しらせ可被下候

一花押數

前編後編揃十三卷揃

古本ニて下直之本御座候ハ、ほしく御座候 本届候ハ

、船ツミの節ツミ入可被下候 尤直段何ほと^ニ申事

御しらせ被下度奉願候

此三日ハ急キ申候

外ニ

一瑯琊代醉編

和本古本ニて下直之品

一無冤録（マ）

右同断

一獺園

右ハ代金壹分式朱ト去年御申越被成候 夫ハ下直之本無之候ハ、右之直段ニても

不急候

一源氏物語湖月抄

これは急キ不申候 素人拂本杯ニて下直之品御座候ハ、御心かけ江戸相場ハ式わりも下直之品御座候節 船ツミニ被成可被下候

右四日ハ急キ不申候間 御心付下直之品 御はたらし可被下候

又外ニ

一冷山平燕（マ） 合本
連城壁

一十二楼前編

一三遂平妖伝 四冊物之方
原本也

右唐本下直之品出候節 頼奉り候 冷山平燕ハ 松坂（マ）

ハ被頼候而 久しくたつね申候 これハ直段ニかゝハらず 本出候ハ、早ニ御しらせ可被下候

美少年録ニ入用之品

一中国治乱記

大内義隆記

西国太平記

右三日ハ丁子や殿へ頼置候書ニ御座候 尤美少年録不残出来終り候へハ 手前ニは入用も無之書故 丁子やニ返し候つもりニ御座候 入用之節斗かり受申度候

俠客傳ニ入用

一いせ名所図会

これハ急キ申候 古本ニても下直之品御座候ハ、俠客傳著述の内御かし可被下候

尤本御座候ハ、丁平殿へ御渡し可被下候

右之通り丁子や殿ニたのミ遣し候 尤代金一度ニとり候てハ ちとこまり申候間 右之段も御心得可被下候

已上

卯月九日

瀧澤

河内屋

茂兵衛様

尚々 去年の冬直段御申越被成候 冠字考 同統貂
和訓栞 三編揃もほしく候へとも 何分代料一度ニ
てハ 炭ミ候間 この分ハ来年の事ニ可致候 夫迄
下直之本御心かけ可被下候

二五 〔天保四年〕五月六日

〔紙背〕

四月廿八日早便御返事

瀧澤

尚々 丁子や^二之御状 無人ニは御座候得とも 早
速御届申候 此段御承知可被下候

四月廿八日出早便御状今日昼後着 忝致拝見候 先以

薄暑之節 弥御揃御安全被成御起居珍重奉存候 随而
拙方相替事無御座候 御休意可被下候 然ハ四月九日
是^レ差出し候書状を以 俠客傳三集四集引つゝき出来
之趣 御案内申入候処 御承知被成厚く御申越し之趣
致承知候 右ニ付三集潤筆残り 金五兩三分ト五匁二
分五厘 外ニ四集潤筆内金拾兩被遣可被下候よしニて
今般金子貳拾兩丁子や^二御下し被成候よし 御紙上之
趣 忝承知致候 然ル処三集殘金さし引勘定 右五兩
三分五匁二分五厘ハ 丁平殿^三出立前持參被致 慥ニ請
取申候間 丁平殿^二此度被遣候金子ハ 同人方^二引取
可被申候 尚又四集潤筆内金も 美少年錄四集潤筆内
金拾兩 先比丁子や殿^レ請取置候処 俠客傳三集四集
引つゝき綴り上候間 美少年錄ハ其次ニ相成候 左候
へハ 右美少年錄四集内金をふり替候ても不苦候間
當時差急キ請取候ニも不及ト存候得とも 何分丁平殿^三
旅行留守之事ニ付 丁子や留守居和介殿^レ金子着候節
右拾兩被差越候ハ、預り置候て 丁平殿^二帰府之節及相
談いづれとも可致候条 此段御承知可被下候